



■ 2024/9期は減収減益。売上は20/9期以来の減収

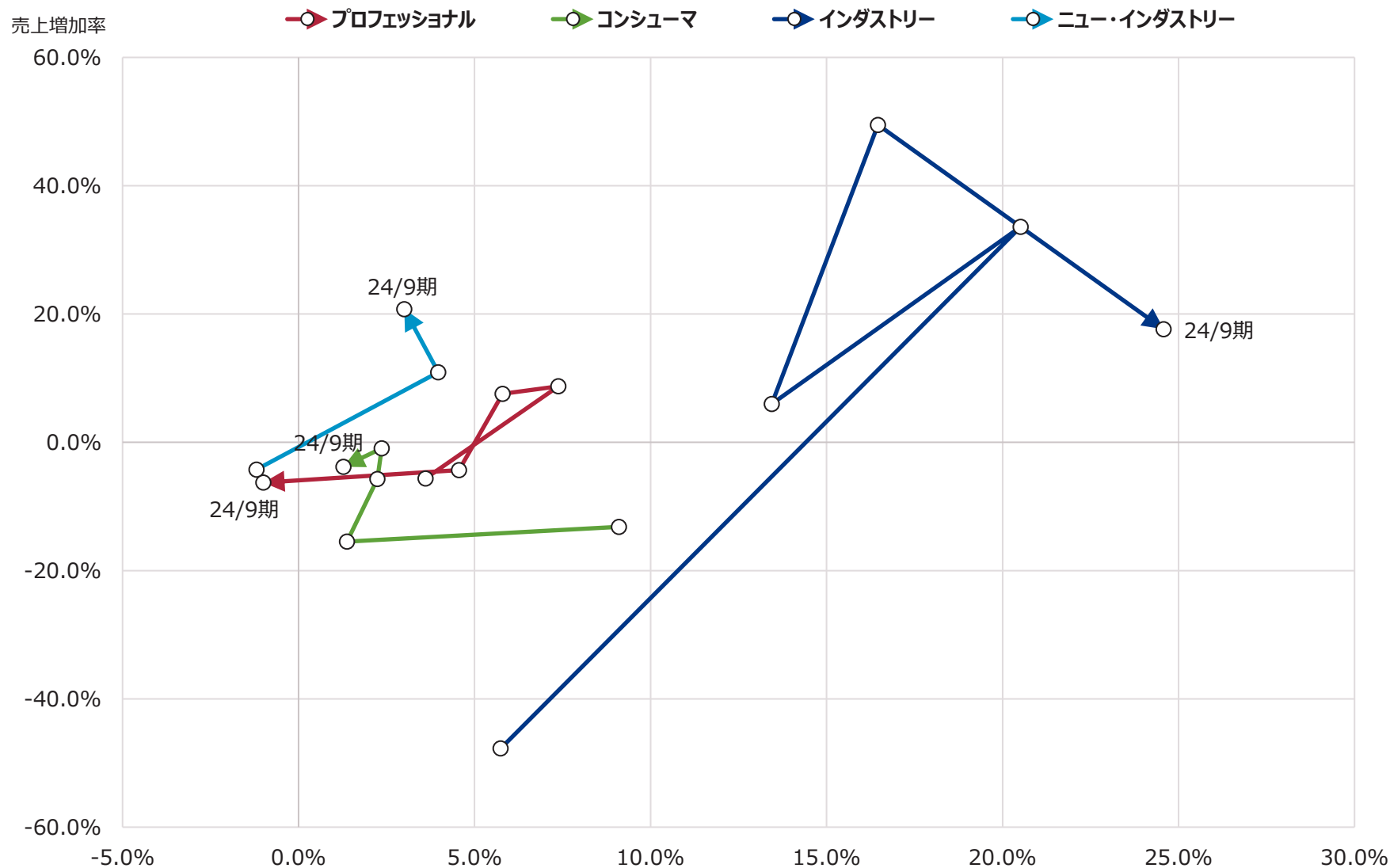
■ 2025/9期には底入れ反転し、増収増益に転じる見込み

	2024/9期	2025/9期見通し
売上高	97.8億円 前期比 ▲1.1%	105億円 前期比 +7.3%
営業利益	1.1億円 前期比 ▲63.3%	3.0億円 前期比 +160.3%
営業利益率	1.2% 前期比 ▲2.0pp	2.9% 前期比 +1.7pp
EBITDA*	3.5億円 前期比 ▲36.4%	-
EBITDAマージン	3.7% 前期比 ▲2.0pp	-
EPS	13.77円 前期比 ▲27.4%	32.46円 前期比 +136%

*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

■ インダストリーセグメントは益々好調なるも、規模の大きいプロフェッショナルセグメントとコンシューマセグメントの低迷が業績の重石に

■ プロフェッショナルセグメント内のネットワーク関連事業を集約組織化し、コンシューマセグメントをテコ入れ。全社業績と資本効率の抜本的改善を図る



起点20/9期 (ニュー・インダストリーは22/9期)
終点24/9期

*総資産償却前利益率 = 償却前セグメント利益 / セグメント資産

総資産償却前利益率*

©KLASS Corporation

2024/9期決算概要

極東産機は、



■ 前期比微減収ながら、営業利益は66%の減少

■ インダストリー、ニュー・インダストリーセグメントは好調に推移したものの、プロフェッショナルセグメントの採算が大きく低下。プロフェッショナルは営業赤字計上となり、インダストリーの好調では吸収できず

■ 従来予想に対しても、売上・利益とも若干の未達

(百万円)	2023/9期	2024/9期				
		従来予想 (2024/8/9)	実績	予想比 増減額	前期	
					増減額	増減率
売上高	9,888	10,000	9,781	▲218	▲106	▲1.1%
プロフェッショナル	7,142	—	6,692	—	▲449	▲6.3%
コンシューマ	734	—	705	—	▲28	▲3.8%
インダストリー	1,462	—	1,719	—	+257	+17.6%
ニュー・インダストリー	549	—	663	—	+114	+20.8%
営業利益	314	150	115	▲34	▲198	▲63.3%
プロフェッショナル	132	—	▲184	—	▲317	—
コンシューマ	▲12	—	▲12	—	—	▲3.8%
インダストリー	175	—	284	—	+109	+62.2%
ニュー・インダストリー	18	—	27	—	+9	+54.2%
EBITDA	565	—	359	—	▲205	▲36.4%
経常利益	283	140	112	▲27	▲171	▲60.5%
親会社株主帰属当期純利益	102	100	76	▲23	▲26	▲25.4%
営業利益率	3.2%	1.5%	1.2%		▲2.0pp	
EBITDAマージン	5.7%	—	3.7%	—	▲2.0pp	

減収減益

減収は2期連続。特に主力の自動壁紙糊付機、畳製造機器が苦戦

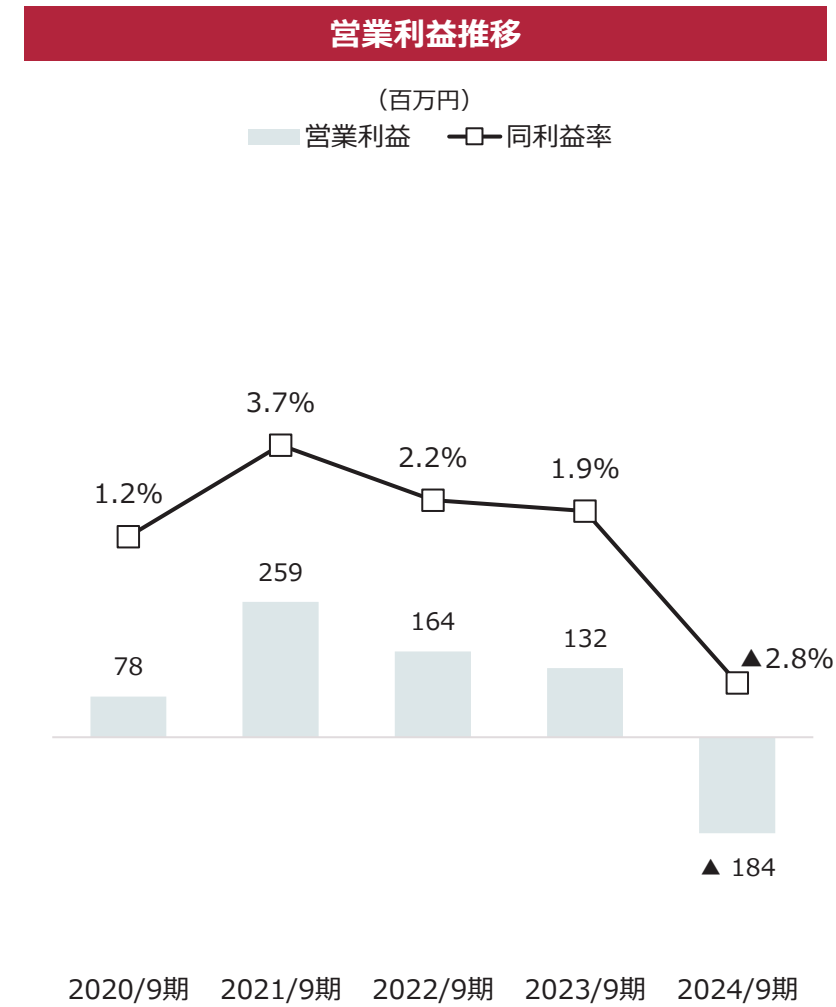
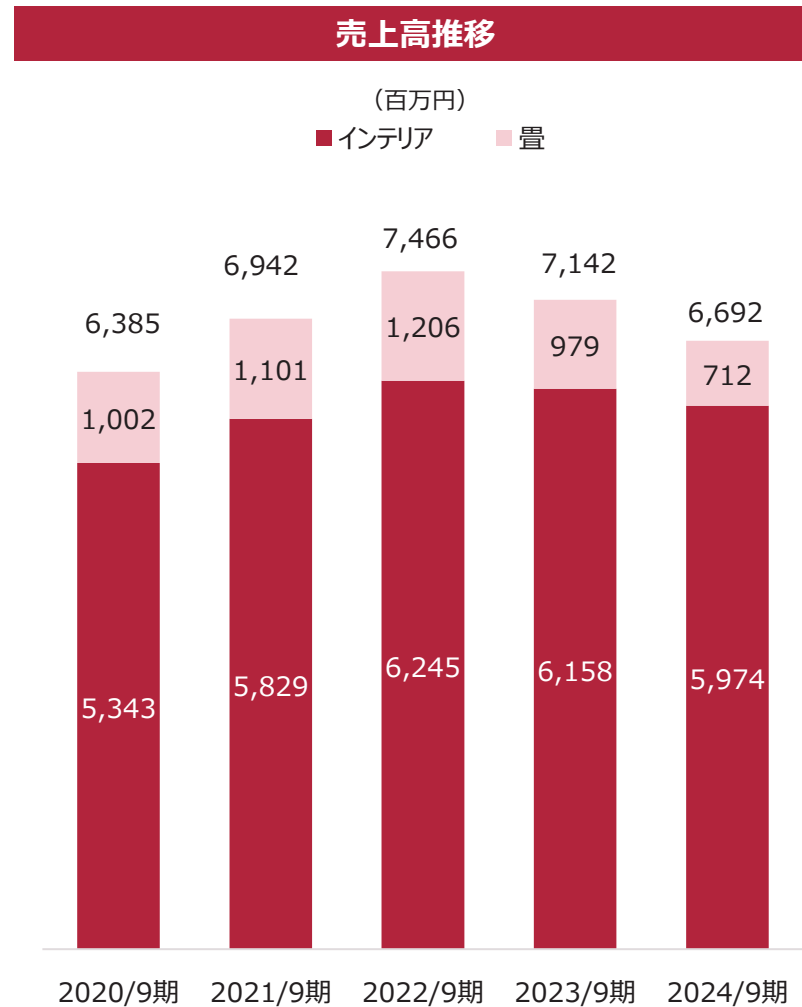
減収に操業度低下の影響、原価高、更には金型償却、商号変更費用といった一時的コストも加わり、上場来初の営業赤字

インテリア

- 住宅着工減の影響を受け、自動壁紙糊付機が低調

畳

- ものづくり補助金制度終了で需要一巡、更に需要の先食いも生じる
- 操業度低下の影響はインダストリーセグメント部品内製化で対応。ただし、影響緩和にはタイムラグ



5期連続の減収。営業赤字も4期継続

コンシューマ

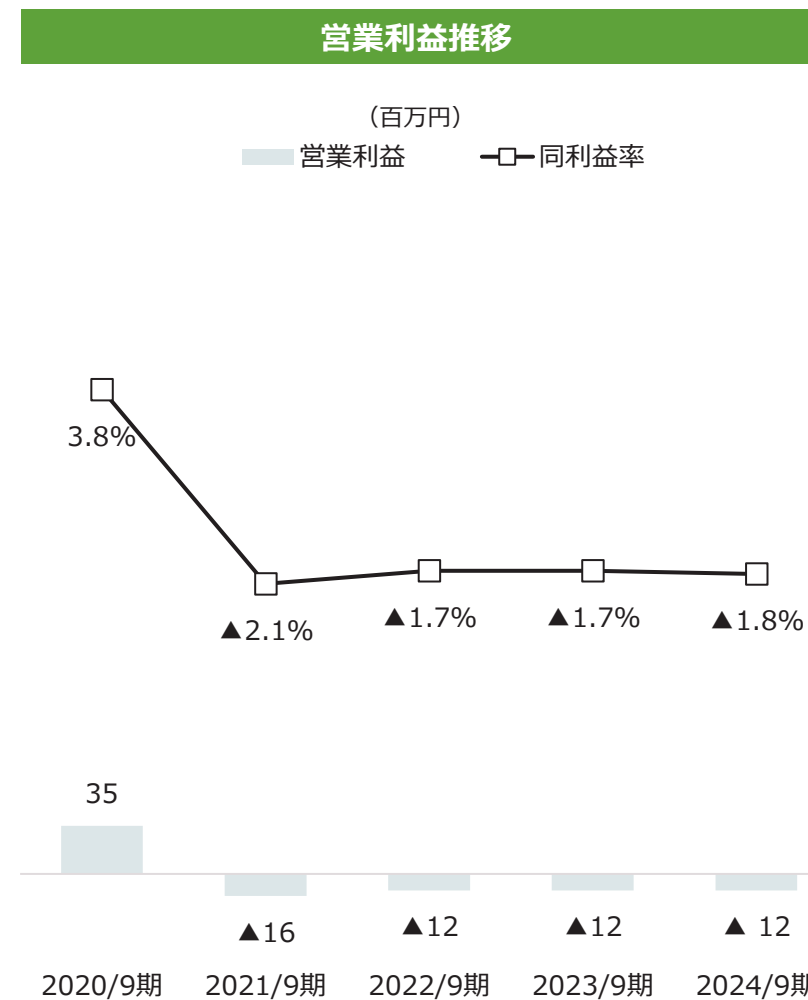
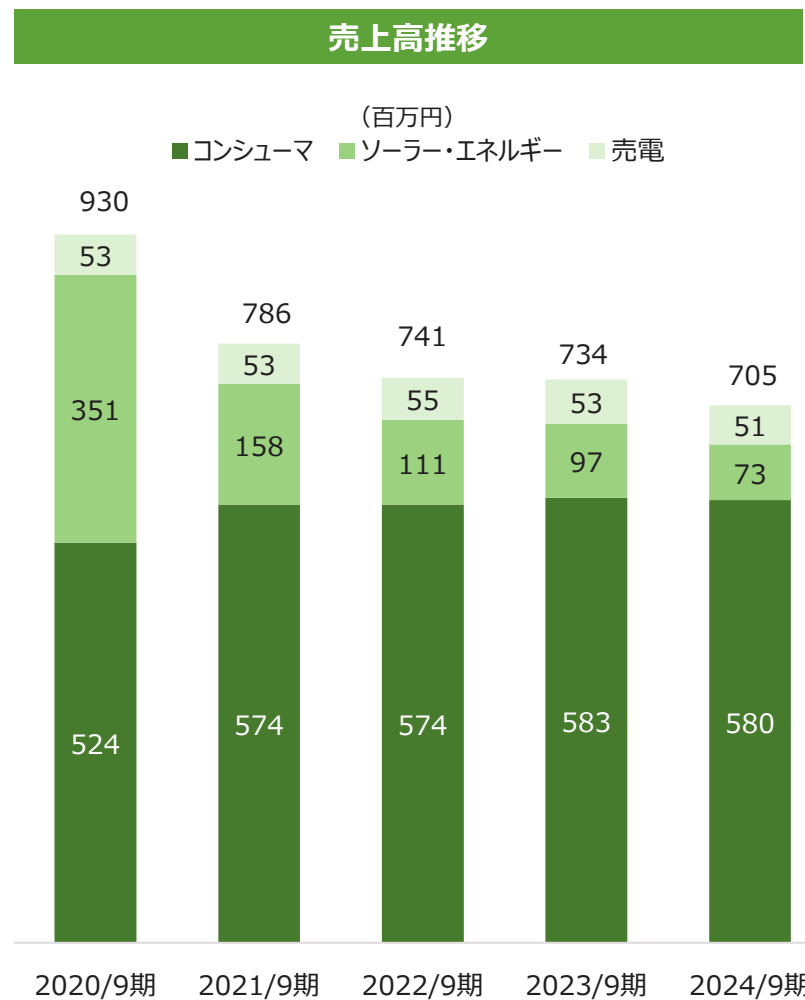
- フィットネスクラブ向け防音・防振床材は堅調。ただし、防音・防振ニーズの高い建物への出店一巡で床材ニーズもやや減速
- 葬祭向けは国内生産への切り替えにより回復に向かうもまだ途上

ソーラー・エネルギー

- 中規模以上の案件が引続き低調

売電

- メガソーラー発電所「三日月サンシャインパーク」をはじめ順調に稼働も、出力制御要請で縮小



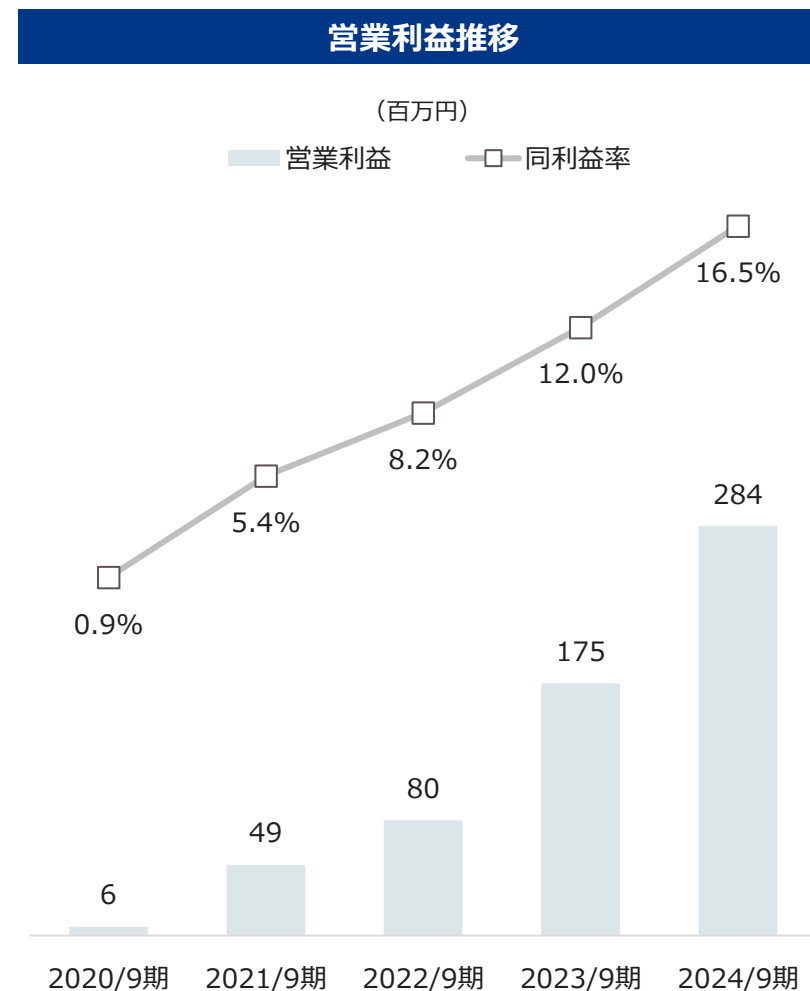
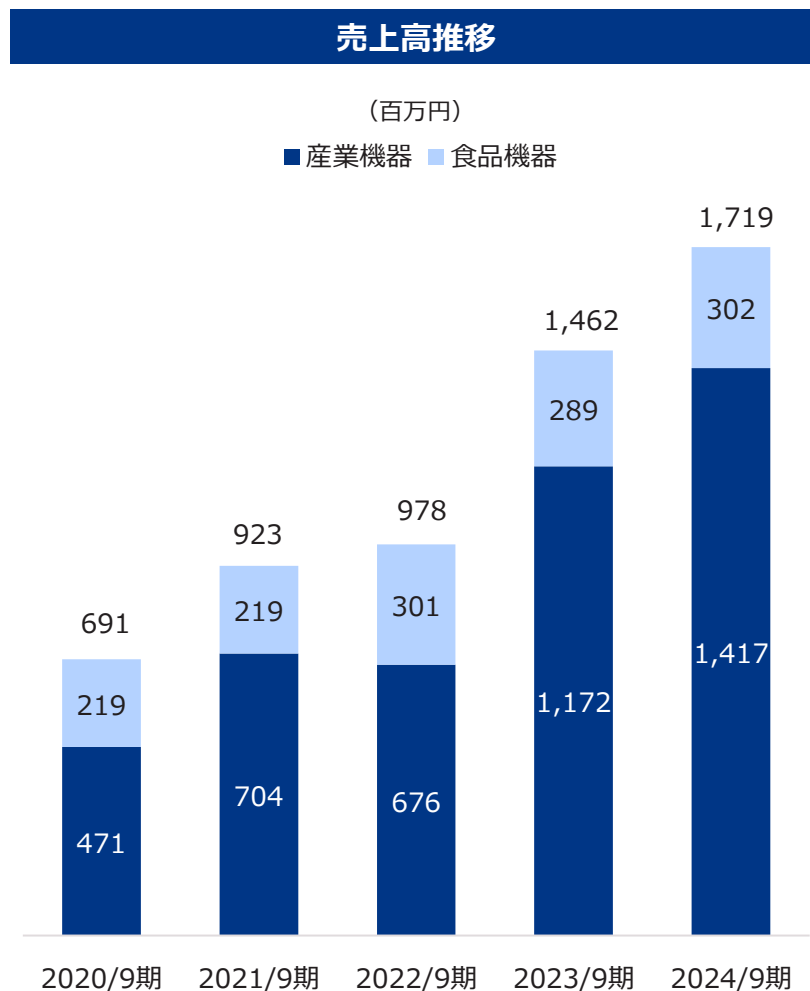
4期連続の増収増益。利益率の上昇基調も鮮明。インダストリーセグメントの営業利益は過去最高を更新

産業機器

- 主力の二次電池製造装置でリピート受注が好調

食品機器

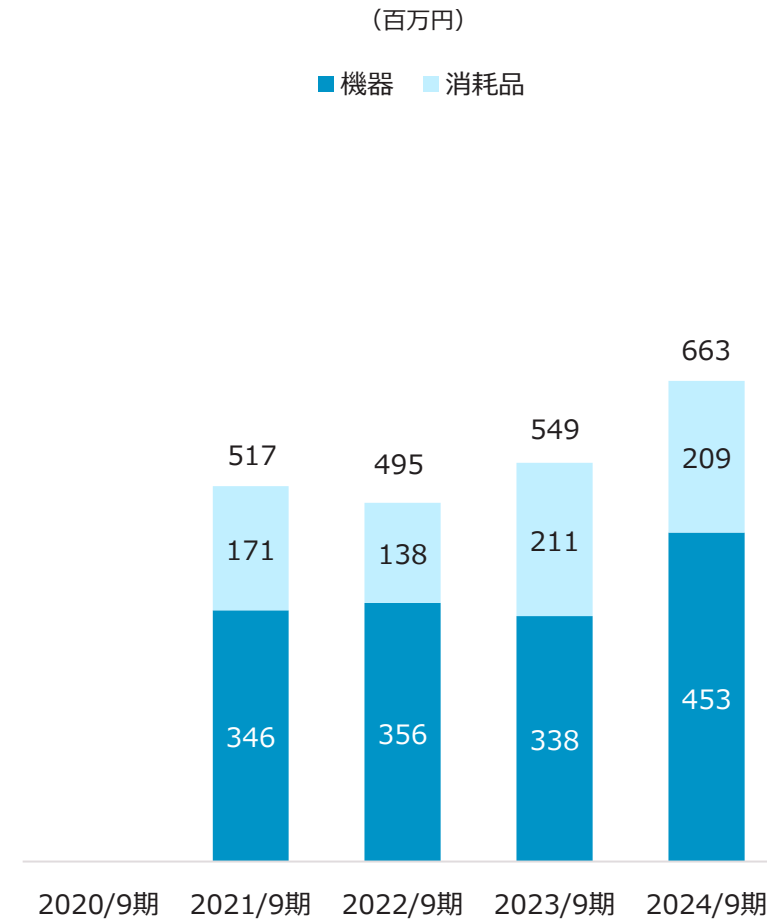
- 大手飲食チェーン向けマルチディスプレイに加え、厨房の省力化機器の引き合い活発化



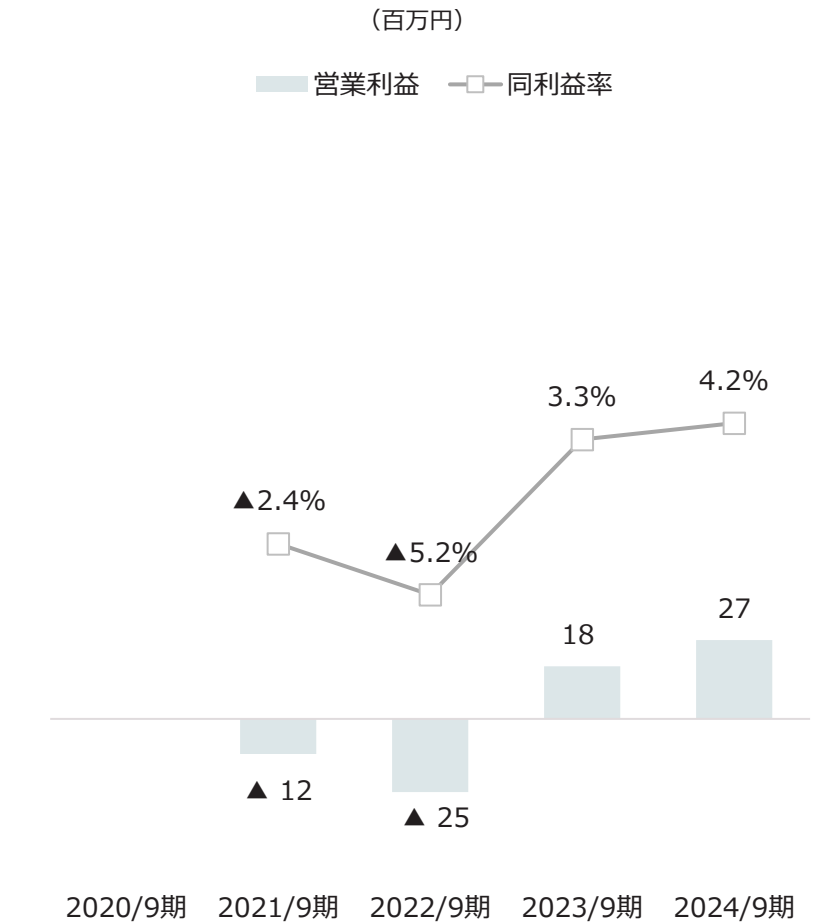
2期連続の増収増益。コロナ禍の投資圧縮の影響を脱し、黒字基調定着

- 自動車部材関連工場の稼働活発化を受け、消耗品の需要の増大と大型機器の受注が活発化

売上高推移



営業利益推移

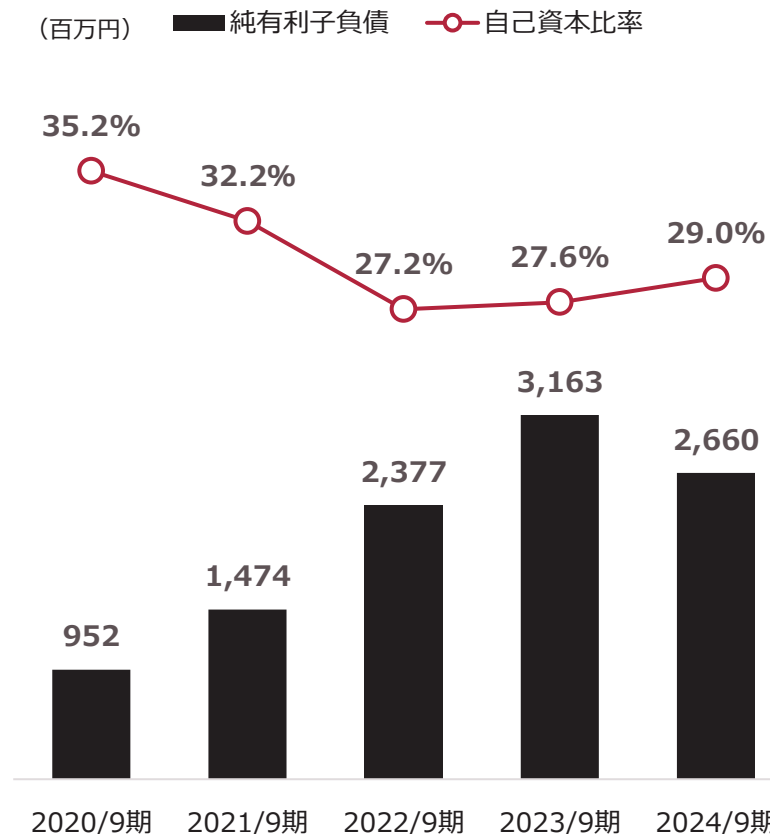


■ 総資産は4期ぶりに縮小。売掛債権の回収進展で借入金を圧縮。キャッシュポジションも余力回復

■ 期末の純有利子負債は5億円減の26.6億円。大型投資の影響から5期連続の増加基調にあったものの、遂に反転。これに併せ、自己資本比率は28.8%と、やや改善

(百万円)	22/9期	23/9期	24/9期	前期末比 増減
流動資産	5,943	6,119	5,660	▲459
現預金	1,497	1,195	1,475	+280
売掛債権	2,924	3,307	2,605	▲701
棚卸資産	1,341	1,454	1,373	▲80
固定資産	4,487	4,456	4,464	+7
負債	7,589	7,660	7,191	▲469
買入債務	2,262	1,952	1,673	▲279
有利子負債	3,874	4,359	4,136	▲222
純資産	2,841	2,915	2,933	+18
総資産	10,430	10,575	10,124	▲451

純有利子負債と自己資本比率の推移

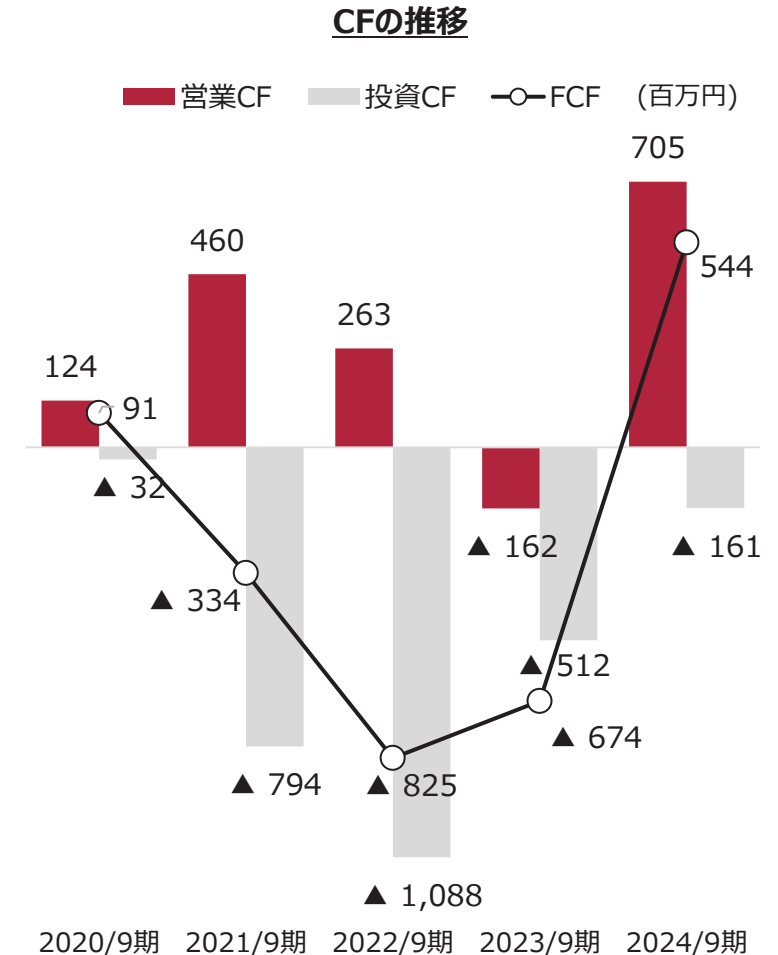


FCFは大幅黒字を計上。新工場建設費用の支払い一巡もあり、投資CFの負担が大幅に低下

営業CFも改善。運転資本は3期ぶりに黒字転換し、資金繰り余力が向上

(▲：CF流出、百万円)	22/9期	23/9期	24/9期
営業CF	263	▲162	705
税引前当期純利益	193	175	117
運転資本増減	▲168	▲841	448
売上債権増減	▲421	▲416	653
棚卸資産増減	▲233	▲113	73
仕入債務増減	486	▲311	▲279
投資CF	▲1,088	▲512	▲161
固定資産取得	▲1,082	▲499	▲133
FCF	▲825	▲674	544
財務CF	757	390	▲282
借入金増減	825	472	▲222
配当金支払額	▲53	▲53	▲53

* FCF=営業CF+投資CF で算出



四半期概況 インダストリーセグメントは4Q売上高が過去最高更新

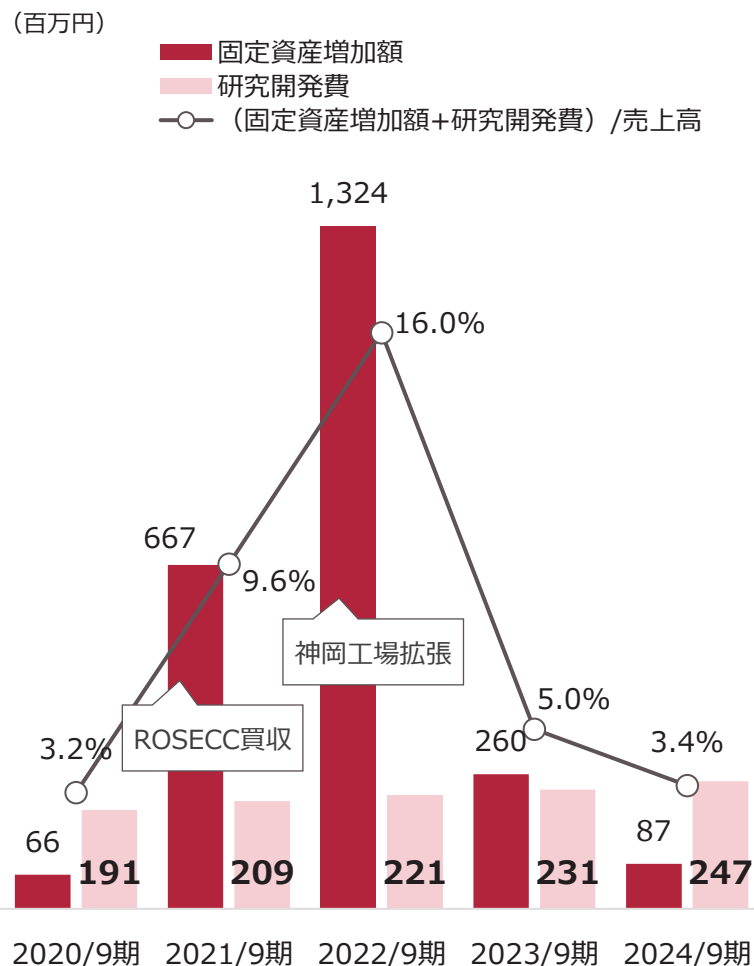
(百万円)	2023/9期				2024/9期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,164	2,643	2,266	2,813	2,201	2,556	2,368	2,655
プロフェッショナル	1,588	1,957	1,672	1,923	1,573	1,789	1,600	1,728
コンシューマ	198	181	173	180	196	168	171	169
インダストリー	300	398	295	467	310	420	461	526
ニュー・インダストリー	76	106	124	241	120	178	134	230
営業利益	25	195	▲38	132	▲33	89	18	40
プロフェッショナル	24	133	▲36	11	▲68	3	▲77	▲42
コンシューマ	▲2	0	▲4	▲6	▲1	▲0	▲5	▲4
インダストリー	27	53	2	92	31	66	94	92
ニュー・インダストリー	▲23	8	▲0	34	5	19	7	▲5
経常利益	20	169	▲29	123	▲37	79	34	36
親会社株主帰属当期純利益	1	126	▲21	▲4	▲35	47	23	40
営業利益率	1.2%	7.4%	▲1.7%	4.7%	▲1.5%	3.5%	0.8%	1.5%
経常利益率	0.9%	6.4%	▲1.3%	4.4%	▲1.7%	3.1%	1.5%	1.4%

■ 技術力での差別化は当社の生命線。研究開発費は漸増トレンドを継続

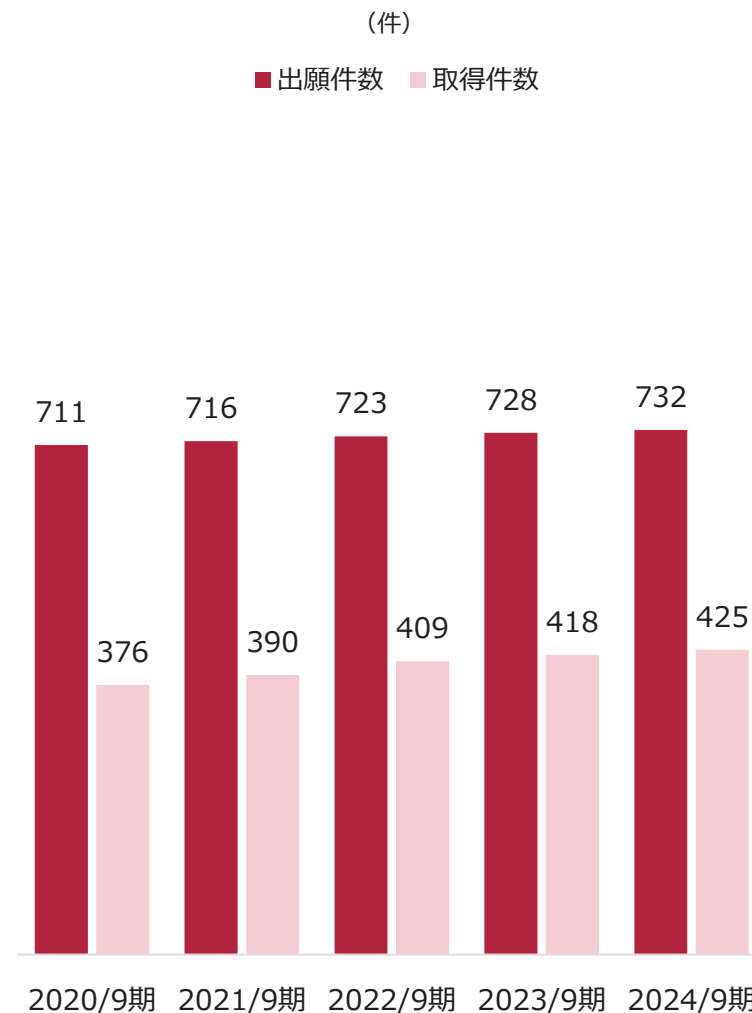
■ 設備投資に関しては、大規模なものはほぼ一巡。今後も機動的に判断してはいくものの、当面はこれまでの投資の成果を確認するフェーズに

■ 特許取得件数も順調に拡大。その先行指標となる特許出願数も高水準を維持

投資&研究開発費の推移



特許取得件数（累計）の推移



2025/9期決算見通し

極東産機は、



■ 2025/9期は反転、増収増益を想定。売上は過去最高となる100億円超を見込む

■ 増収の牽引役は2024/9期に不振だったプロフェッショナルセグメント。コンシューマ、ニュー・インダストリーの2セグメントも2ケタ増収を目論む。一方。インダストリーは2024/9期好調の反動を想定し、減収見通し

■ 損益面では、プロフェッショナルセグメントで赤字が縮小。コンシューマセグメントは黒字化へ。インダストリーセグメントは2021/9期以降5期連続の増益

(百万円)	2023/9期	2024/9期	2025/9期		
			見通し	前期比	
				増減額	増減率
売上高	9,888	9,781	10,500	+718	+7.3%
プロフェッショナル	7,142	6,692	7,275	+582	+8.7%
コンシューマ	734	705	850	+144	+20.4%
インダストリー	1,462	1,719	1,625	▲94	▲5.5%
ニュー・インダストリー	549	663	750	+86	+13.0%
営業利益	314	115	300	+184	+160.3%
プロフェッショナル	132	▲184	▲38	+146	—
コンシューマ	▲12	▲12	13	+25	—
インダストリー	175	284	305	+20	+7.2%
ニュー・インダストリー	18	27	20	▲7	▲28.2%
EBITDA	565	359	—	—	—
経常利益	283	112	295	+182	163.3%
親会社株主帰属当期純利益	102	76	175	+98	129.4%
営業利益率	3.2%	1.2%	2.9%	+1.7pp	—

プロフェッショナル

- 差別化戦略に基づく提案営業の推進で需要掘り起こしに注力
- 稼働率改善、一時的コストの消失から赤字縮小し、翌年度の黒字転換を期する

コンシューマ

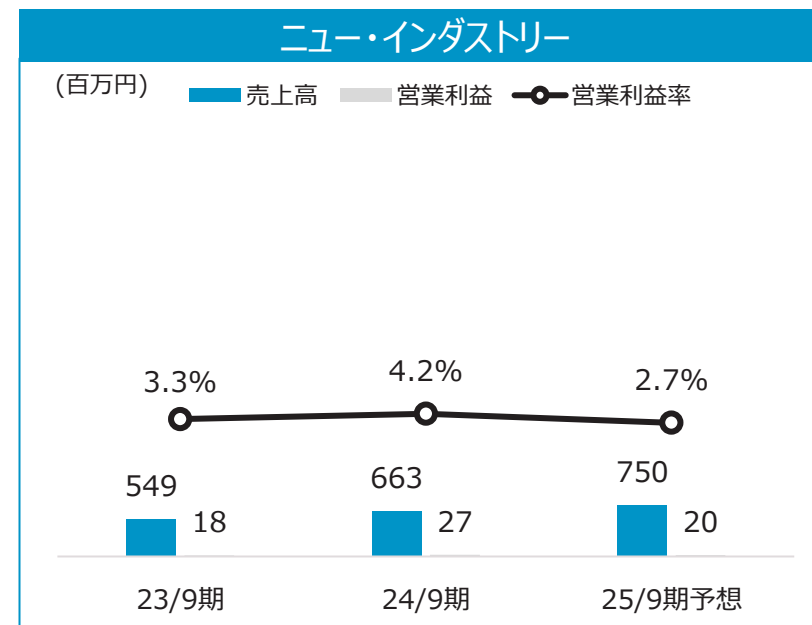
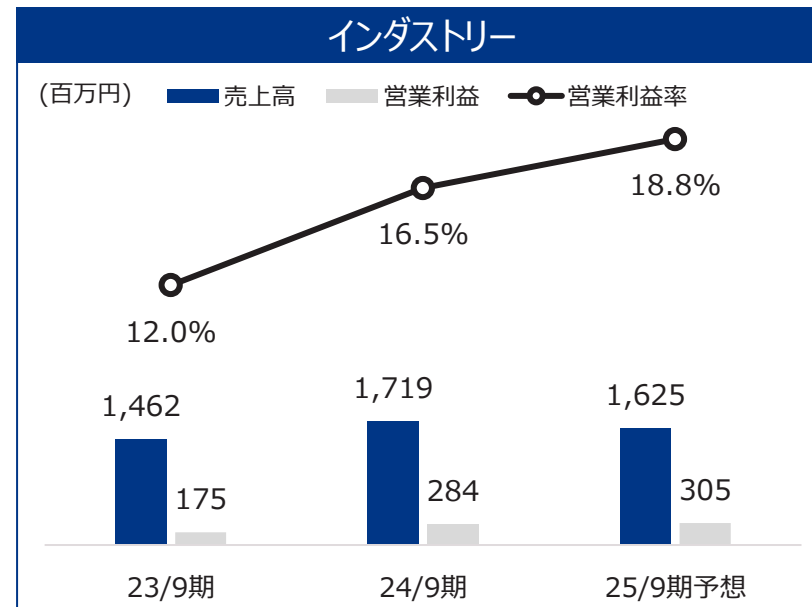
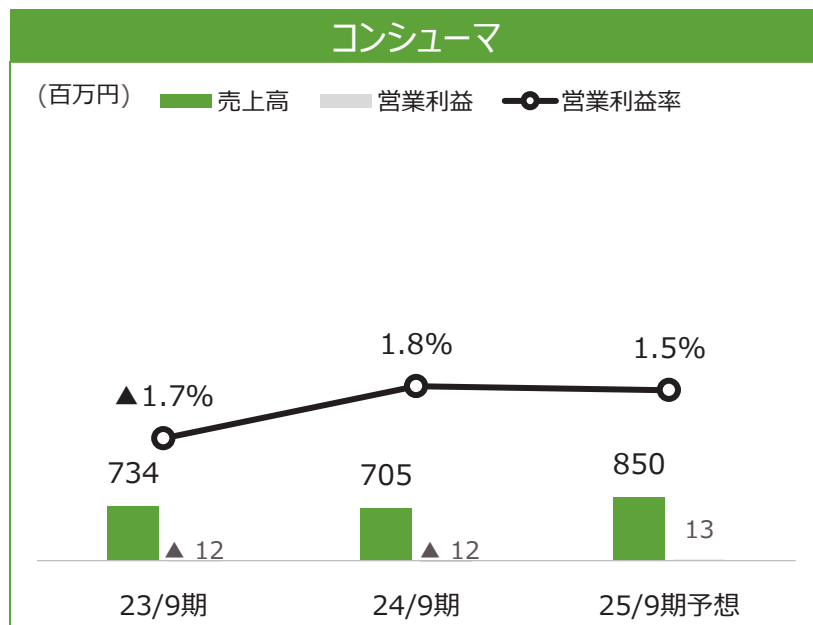
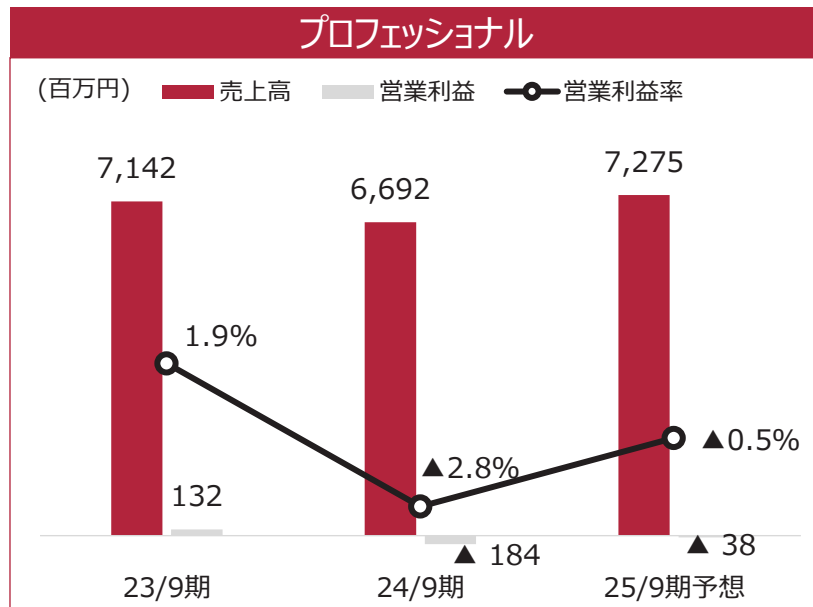
- 業績底入れ、採算も改善。増収増益見込み

インダストリー

- 採算重視で減収増益へ。産機の利益率改善
- 食品機器は新規自動化ニーズの発掘

ニュー・インダストリー

- 販売重視で増収減益

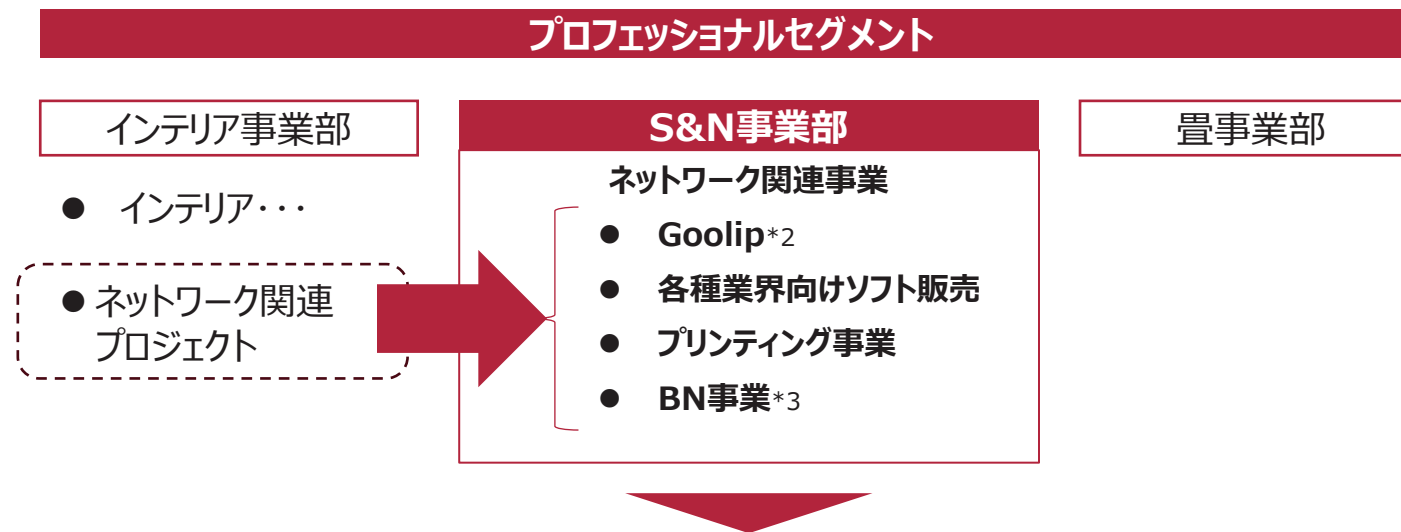


■ プロフェッショナルセグメントのネットワーク関連事業を総合的に推進するため、インテリア事業部内プロジェクトを独立させ、「S&N事業部」として独立

■ 中期ビジョン（ビジョン80）で提唱した2.4次産業型事業の進展を見据えたビジネスモデルの変革

S&N事業部の設置

(2024年10月)



2.4次産業*1型事業

*1 : 2.4 次産業

製造業（2次）とサービス産業（3次）の互いの接近がコロナを契機に加速するが、各々の基本的性格の転換までは行かず、2→2.4で、3→2.6で留まるであろうという一橋大学名誉教授伊丹敬之氏の言説

*2 : Goolip

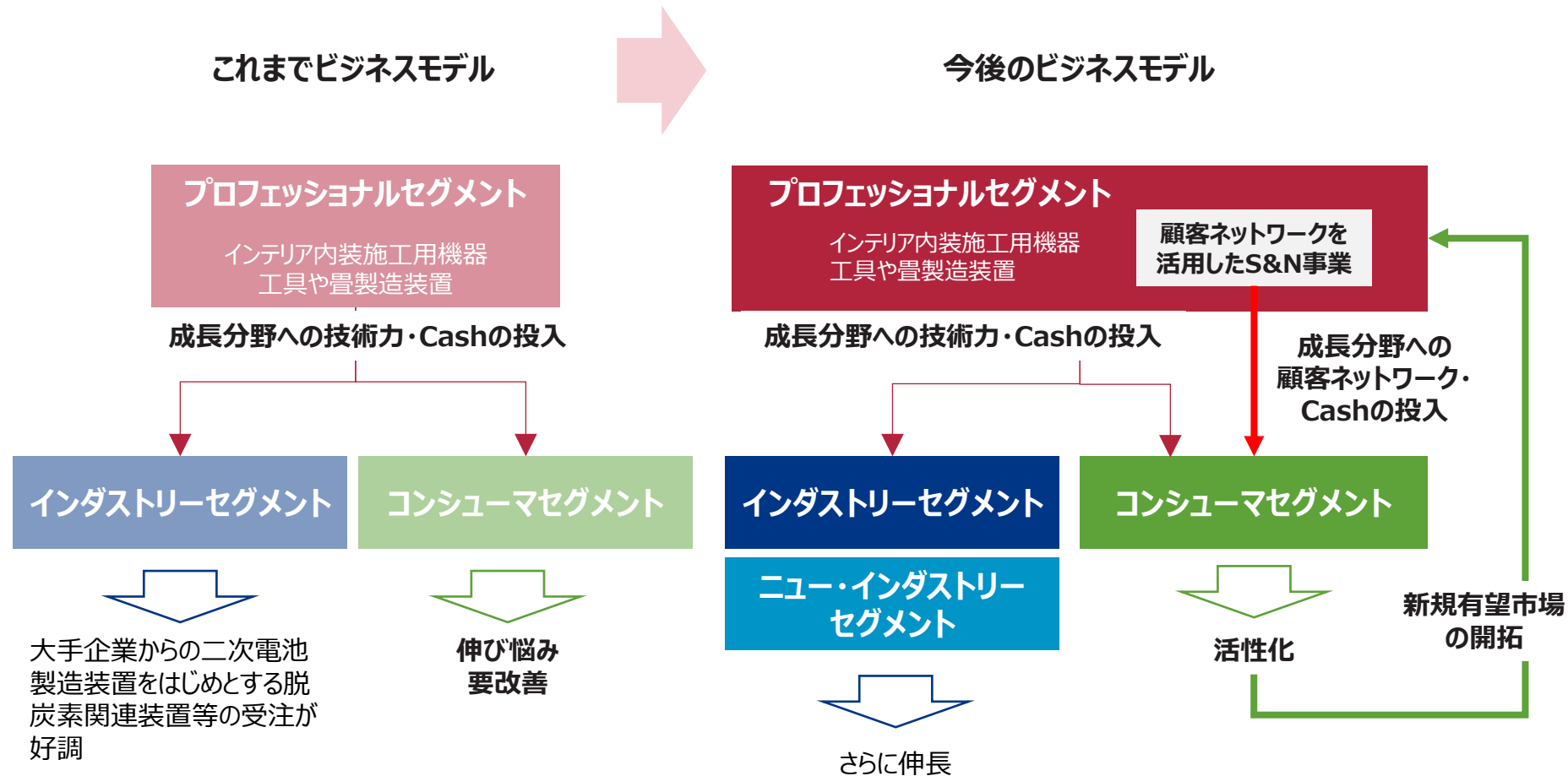
内装工事店向けに長年コンピュータシステムを販売してきた実績を活かして、サブスクタイプの見積・請求管理のクラウドシステムを広く建設業界向けに提供する事業

*3 : BN事業

インテリア・畳の顧客向けオーダーメイドのコンピュータシステムの開発・販売事業

■ S&N事業部は、長年プロフェッショナルセグメントにおいて、種々の製品を通じて構築した顧客ネットワークを活用し、新たなハード・ソフト・サービスの提供を行う

■ 顧客ニーズの掘り起こしや可視化を通じ、プロフェッショナルセグメント自体の拡大、新規分野の開拓に寄与するとともに、コンシューマセグメントの活性化・テコ入れにも寄与する

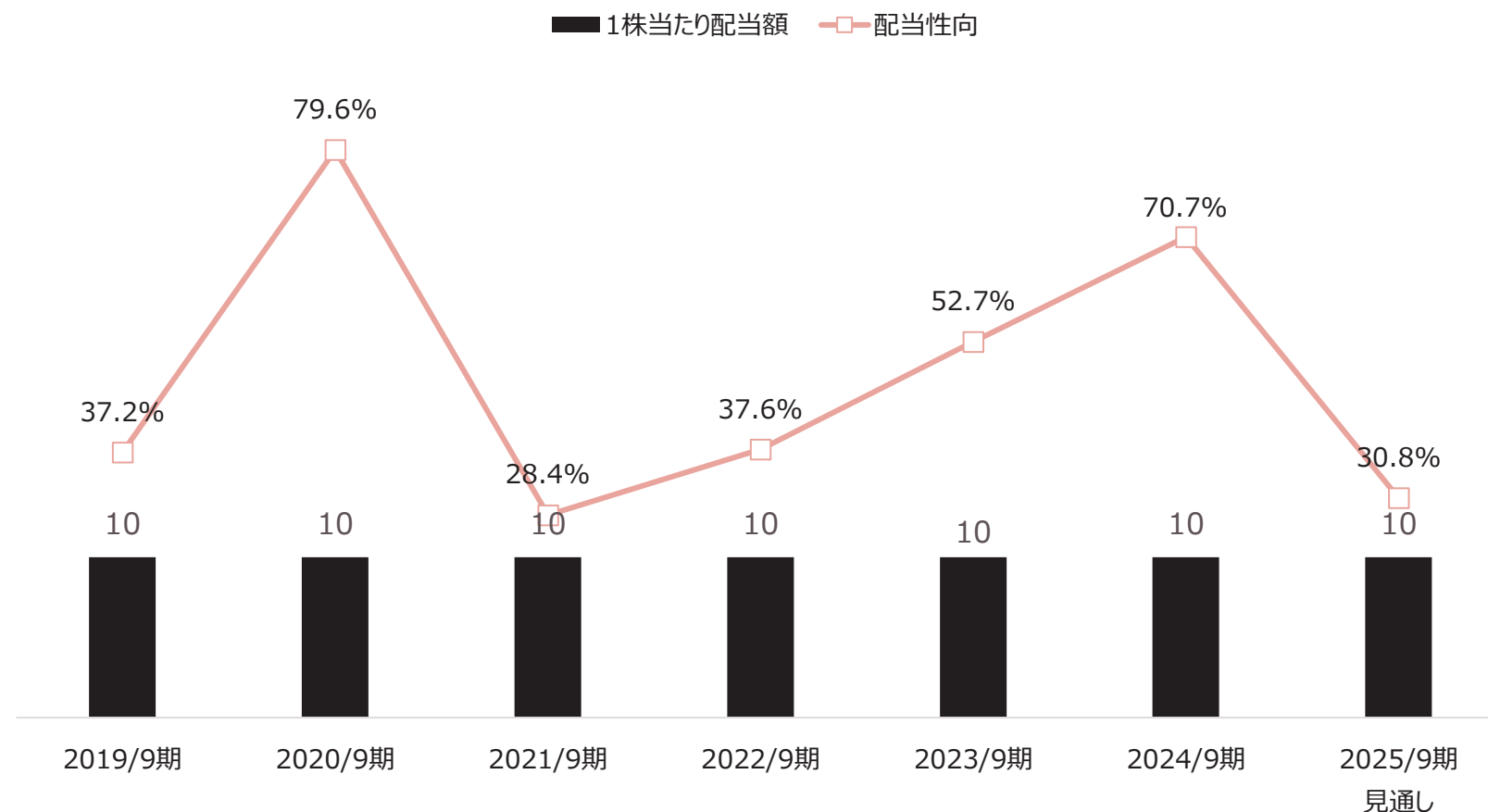


■ 当社株主還元方針に基づき、2024/9期は10円配当継続を計画。配当性向は70.7%

■ 2025/9期配当は据置きの10円を予定。配当性向は30.8%の見通し

株主還元方針

安定配当の維持を基本としつつ、今後の事業展開等を勘案して配当を実施



企業価値向上に向けた改革の基本方針

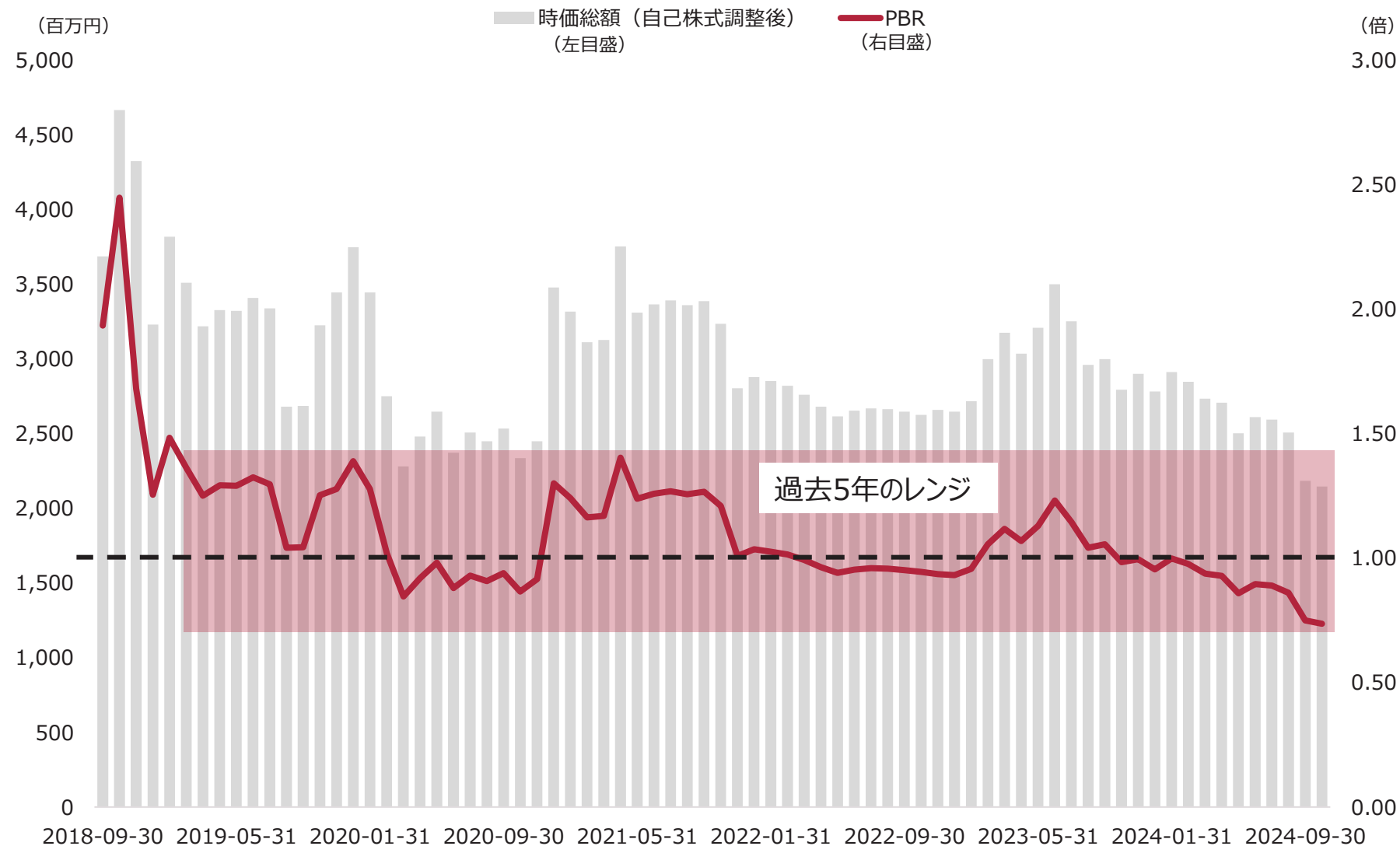
～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み

極東産機は、

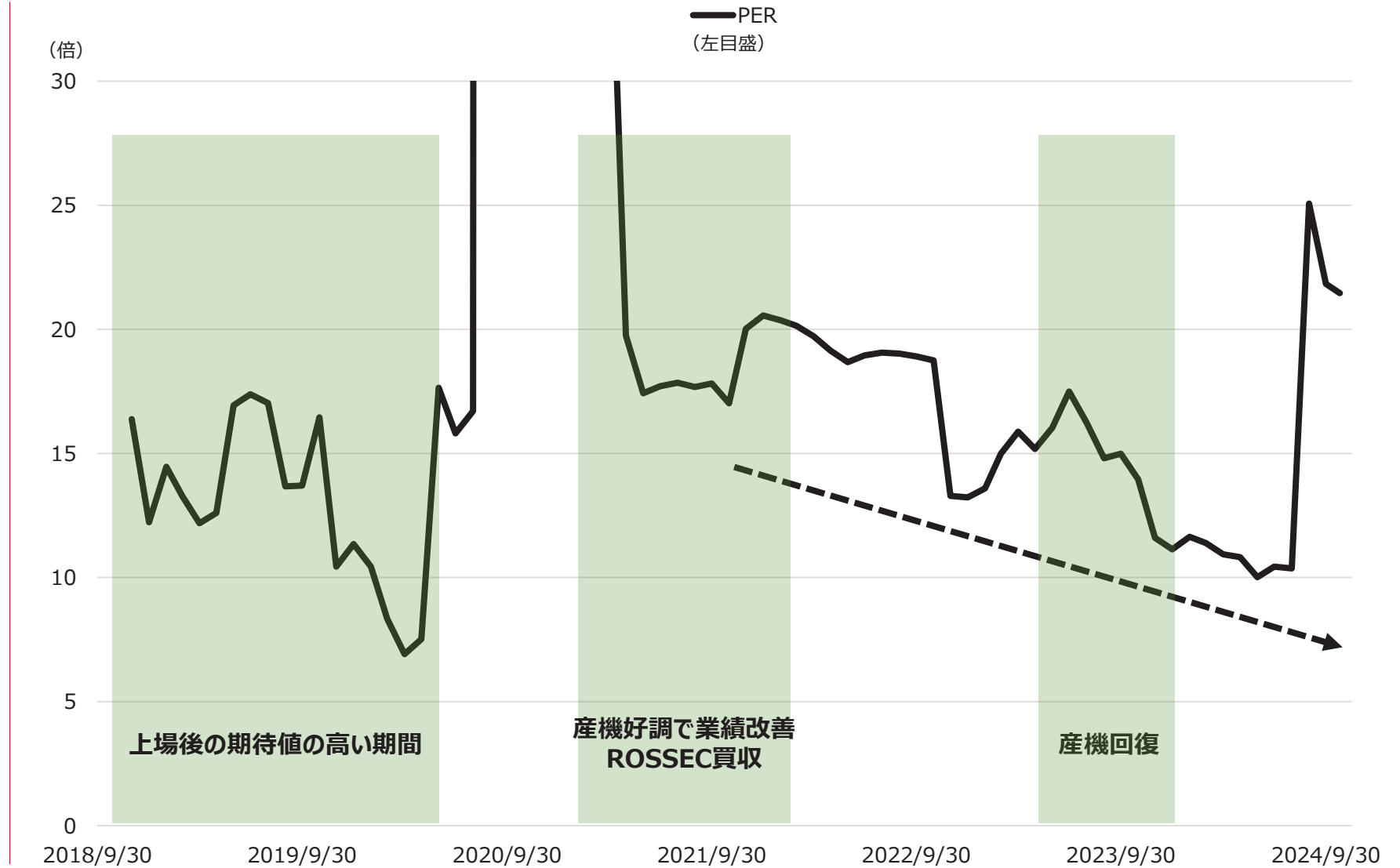


■ 時価総額は、過去5年間25~35億円のレンジで推移。直近1年は3割程度減少し、レンジの下限にヒットした状態

■ 株価低迷の背景には営業利益減少傾向にあることと認識



営業利益に加えて、PERも低下傾向にあり、結果、PBRが1倍割れとなる状況



■ 蓄積している無形財（無形の経営資源）に価値を付加し、利益率、総資産回転率の改善によるROE向上を実現し、もって、中長期的な企業価値の向上を図る

新設したソリューション&ネットワーク事業部を核とした「2.4次産業型企业」として発展

蓄積している無形財（無形の経営資源）≡ 主として、顧客ネットワーク

- インテリア事業や畳事業の機械・工具ユーザー
- 代理店等の販売ルート
- 地元やマーケットでの知名度
- 構造改革提案に賛同するユーザー畳店グループ（JCS会）
- ITシステムを活用したソリューション
- 顧客要望による機器の設計開発技術力 等

無形財への価値の付加



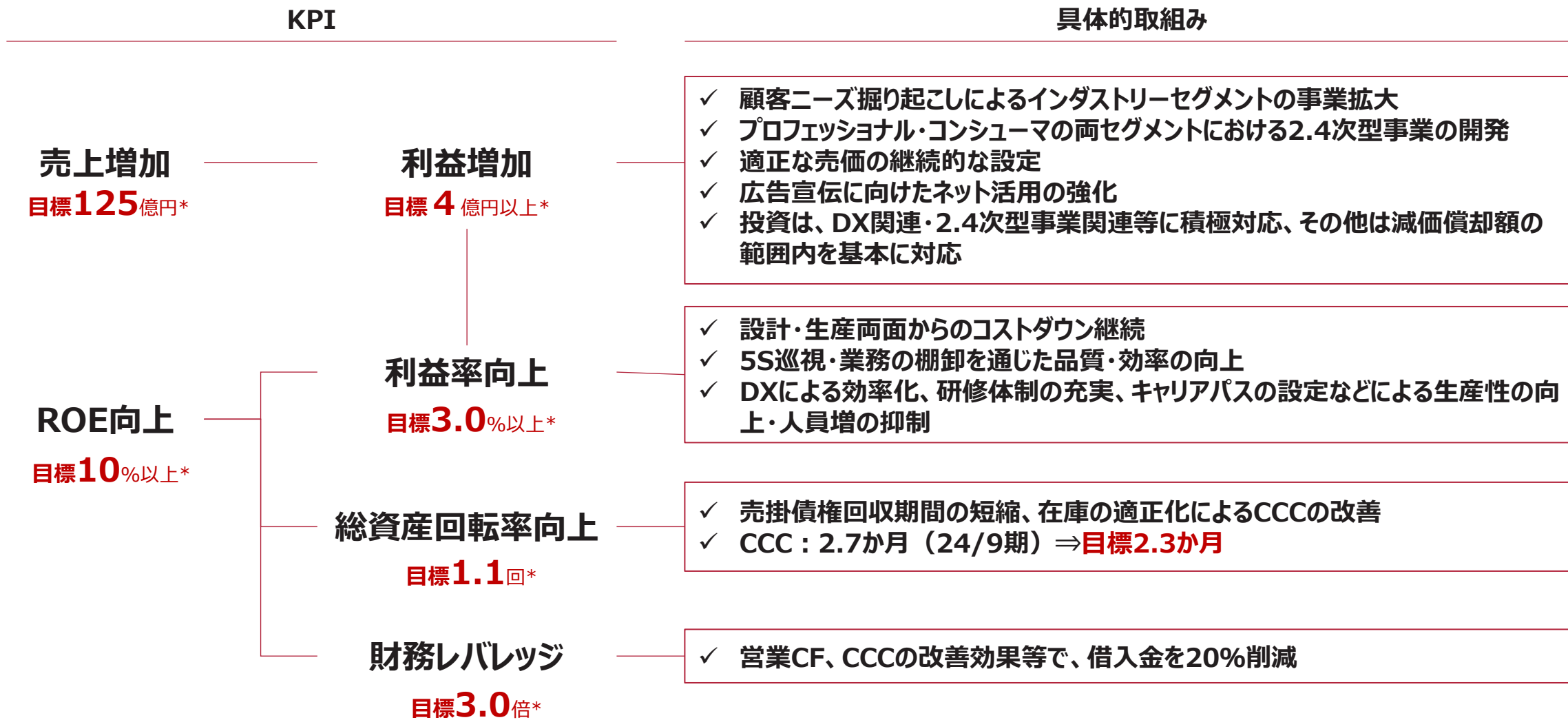
利益率、総資産回転率の向上



ROE向上



企業価値（株式時価総額）への反映を目指す



*2024/9期：売上高＝97億円、当期純利益＝0.7億円
ROE（2.6%）＝売上高利益率（0.8%）×総資産回転率（1.0回未満）×財務レバレッジ（3.5倍）

Appendix

極東産機は、



■ 畳製造装置や自動壁紙糊付機等の住宅に関わる製品や、地元産業との異業種交流から始まった食品機器の開発を通じ、長年培ってきた7つのコア技術を活用した産業機器の開発・製造やFactory Automation化の提案で、ものづくり現場に貢献

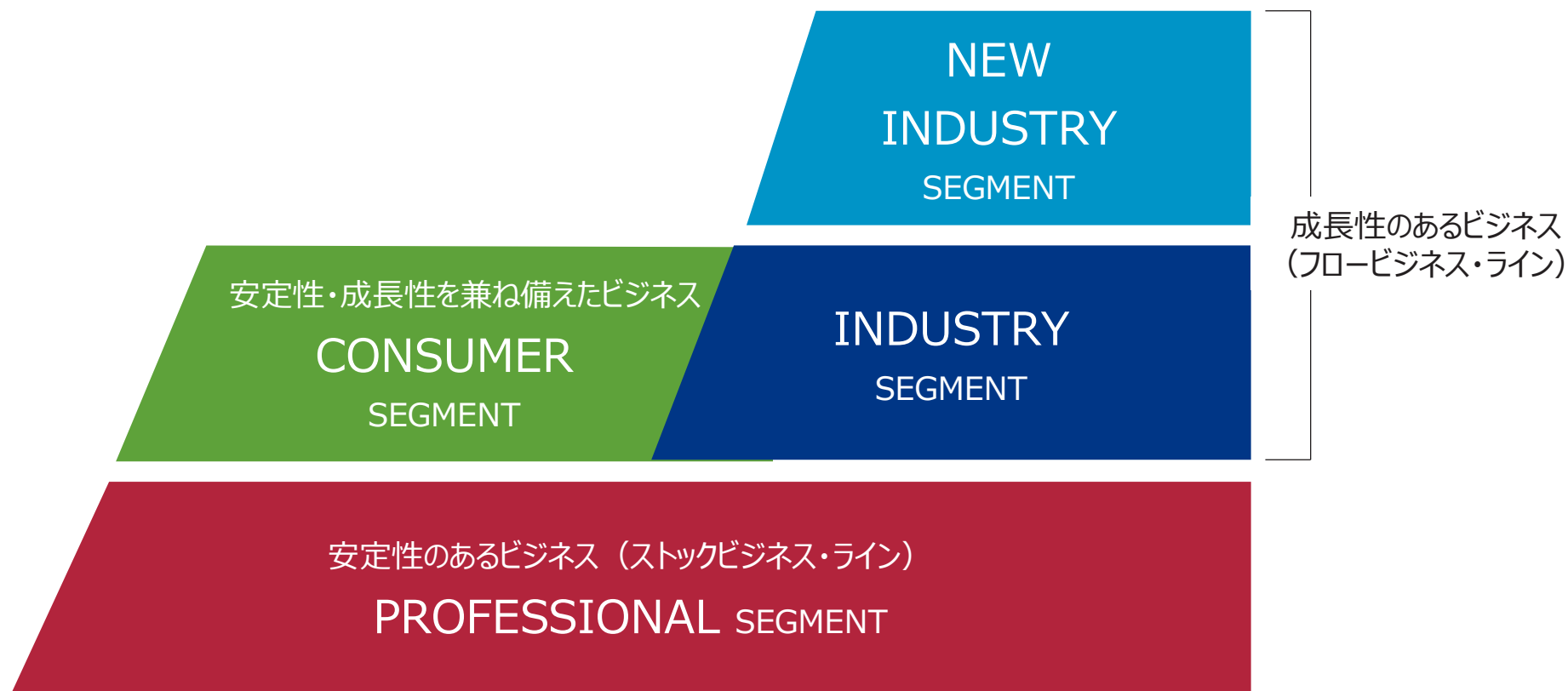


	当社のテリトリー 創業来この分野への挑戦を継続	通常の機械メーカーのテリトリー
対象物	形状が不均一 破れやすくシワになり易いモノ 機械化の困難なモノ	規格製品 変形せず掴み易いモノ 機械化の容易なモノ
Point	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職人技術の世界への参入 ・ 全ての要素技術が同時に満たされなければ職人と対抗不可 ・ その結果、他社では実現困難な機能の提供が可能に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多数の企業が参入可能 ・ 要素技術は分業化傾向

経験とノウハウの蓄積

機械化の実現

- 当社はこれまで、創業以来の「プロフェッショナルセグメント」が、技術力と商品力を駆使して新商品を開発し、新市場を作り続けてきた
- 今後とも、「安定性」のある「プロフェッショナル」と「成長性」のあるその他3セグメントが、それぞれの強みの相乗効果を発揮してさらなる発展を遂げていく



		2020年9月	2021年9月	2022年9月	2023年9月	2024年9月
売上高	(千円)	8,006,367	9,169,425	9,660,071	9,888,009	9,781,915
経常利益	(千円)	81,586	273,578	194,796	283,732	112,050
当期純利益	(千円)	67,685	189,534	143,422	102,307	76,273
資本金	(千円)	631,112	631,112	631,112	631,112	631,112
発行済株式総数	(株)	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000	5,391,000
純資産額	(千円)	2,673,643	2,780,993	2,841,288	2,915,188	2,933,339
総資産額	(千円)	7,591,862	8,625,240	10,430,851	10,575,752	10,124,388
1株当たり純資産額	(円)	495.95	515.86	527.05	540.76	544.13
1株当たり配当額	(円)	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
1株当たり当期純利益金額	(円)	12.56	35.16	26.60	18.98	14.15
自己資本比率	(%)	35.2	32.2	27.2	27.6	29.0
自己資本利益率	(%)	2.5	6.9	5.1	3.6	2.6
配当性向	(%)	79.6	28.4	37.6	52.7	70.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	124,059	460,771	263,057	▲162,264	705,569
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲32,338	▲794,812	▲1,088,497	▲512,18	▲161,018
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲70,960	442,782	757,699	390,093	▲282,904
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	1,046,348	1,155,091	1,087,351	803,000	1,064,646
従業員数	(人)	281	292	295	298	300
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(23)	(25)	(29)	(29)	(27)

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
管理本部総務部 IR担当
0791-62-1771 (代表)
ir-info@klass-corp.co.jp